



最初に製作されたPWC用の船台。アルミではなくステンレス製で、形状も現行モデルとは異なり大型。



ファクトリーゼロの代名詞であるアルミフレームには、軽量化と強度を両立するための工夫が凝らされている。



ジェットランチャー開発時の貴重な写真がこちら。運搬時の軽快感、トラクションへの伝わり感など、細かいテストが繰り返された。タイヤのホイールをプラスチック、ヘアリングを樹脂にするなど、当初からサビ対策も万全。



ジェットランチャーの製作にも使用するマシンニングセンター。この機械で穴開けや切削などの加工を行っている。



独自の発想と確かな技術から
生み出された製品は
多種多様なマリネンレジャーで活躍

世界で愛される
日本の製品

Made in JAPAN



PWC以外にも、ヨットやディンギー用のランチャーやSUP用のアルミラック、オーバースライダー、ビーチの監視台など、ファクトリーゼロの製品は多種多様なマリネンの現場で活躍している。



ファクトリーゼロがジェットランチャーを開発する際にもっともこだわったのは、運搬時の軽快感だ。まずは製品自体を軽くするため、肉薄のアルミフレームを開発。強度を補うために形状を工夫し、フレーム内にリブを配置するなど、いかにして薄く、強いフレームを作るかに

こだわった。フレームが完成したら、次はPWCを載せた際の重量バランスを徹底的に研究。もっとも軽い押し心地、引き心地が得られるポイントを探っていく。そして試作品が完成したら、最後はワンシーズンかけて耐久テスト。こうして長い年月を経たのち、ようやく発売が開

始。するとわずか数年で、ジェットランチャーは国内トップシェアにまで登り詰め、それ以降、ファクトリーゼロはPWC関連のアルミ製品を数多くリリース。これらの製品は、PWCユーザーにとってなくてはならない存在となっている。そして現在では、欧米や中東

などの海外でもシェアを拡大。国内でもこだわり抜いた機能性が評価されたが、海に向こうでも同様の評価を得ているという。日本人のものづくりに対するこだわりは、国境を越え、言語を超えて感じられるものだということが、ジェットランチャーを通じて改めて感じられた。



ファクトリーゼロでは船台だけでなく、エアボールやフラインググリップなどの幅広い製品をリリース。工場前にはテストに使用したPWCやヨット、カヌーなどが並んでいる。



工場内には在庫商品の他、ジェットランチャー用のタイヤが大量に積まれていた。



工場の3階はマスト、エアボール、オーバースライダー部門となっている。



創業メンバーのひとりであり、生粋の職人といえる代表の向井氏は、今でも現場に立つこともあるようだ。



海外からのコメント

ファクトリーゼロのジェットランチャーを使って7年になるけど、壊れたリトラブルが起きたことは一度もないよ。それぐらい丈夫だし、女により使いやすい。高さからうまいからひとりで簡単に載せられる。柔らかい砂浜でもスムーズに動かせる。フリーライダーはビーチにいたことが多から助かってるよ。とてもユーザーフレンドリーなランチャーだと思う。簡単に分解できるから、持ち運びも便利だね。あとは見た目もクールだ。ジェットランチャーに乗った僕のリックターは、いつもよりカッコよく見える気がするよ!!

Taylor Curtis

テイラー・カーティス

数々の輝かしい実績を持つ、世界屈指のフリーライダー。米国カリフォルニア州モロベイ在住。チームリックター所属。